

- 紫藤 治：環境生理学講座教授 藤谷昌司：神経形態学講座教授
椎名浩昭：泌尿器科学講座教授 森田栄伸：皮膚科学講座教授
内尾祐司：整形外科学講座教授 折出亜希：産婦人科学講座講師
田中小百合：内科学第一講座助教 川島耕作：内科学第二講座助教
橋本龍樹：臨床看護学講座教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題を持つ対象者の病態を正確に捉えて高度な看護実践を行うために必要な病態生理の知識を、主要な症状や病態に焦点を当てて、人体の系統性に沿って学習する。さらに、臨床判断を求められる頻度の高い症状や病態を呈する患者事例の検討をとおして、病態のメカニズムと治療との関連を理解し、病態を踏まえた高度な看護介入を行うための基盤となる臨床判断力培う。

2. 教育目標

- 1) 主要な症状や症候について、発生メカニズムを正常な形態と機能との関連から説明できる。
- 2) 主要な症状や症候と所見との関係について説明できる。
- 3) 疾患とそれに伴う症状や症候との関連について理解し、臨床看護判断に活用できる。
- 4) 事例を用いて、複雑な病態を示す対象者に対して病態生理的な変化を解釈、臨床看護判断につなげることができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義：人体の形態と機能、疾病と随伴症状発現のメカニズム等に関する基礎的知識についての事前学習を踏まえていること前提として授業を進める。
- 2) 演習：事例検討は、小グループによる演習形式とする。
 - (1)病態症候論に基づき症候・症状から疾患を推測し特定する。
 - (2)特定した疾患・病態に伴う看護問題を診断し対策を立案する。※ 事例は「呼吸困難」「意識障害」「胸痛」「腹痛」「嘔気・嘔吐」「発熱」「頭痛」「ふらつき」等の何れかを主症状とする 2 事例とする。
※ 事例は毎年変更する。

【評価】

事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 松村理司監訳：Dr.ウィリス ベッドサイド診断 病歴と身体診察でここまでわかる！. 医学書院, 2008.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1		病態生理学の紹介、体系的枠組み、基礎知識	紫藤
2		環境病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (熱中症を考える)	紫藤
3		循環・体液病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (血圧の決定と異常)(心不全時の体液バランスの変化)	紫藤
4		呼吸病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (換気異常、肺サーファクタントの必要性)	紫藤
5		代謝病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	田中
6		筋骨格系病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	内尾
7		消化器病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	川島
8		生殖器病態生理 ・ 随伴症状、主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	折出
9		皮膚病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	森田
10		脳神経病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	藤谷
11 12		演習：事例検討① ・ 病態症候論に基づき症候・症状から疾病と病状を解釈する。 ・ 解釈した疾病・病状に伴う看護問題を診断し対策を立案する	橋本
13 14		演習：事例検討② ・ 病態症候論に基づき症候・症状から疾病と病状を解釈する。 ・ 解釈した疾病・病状に伴う看護問題を診断し対策を立案する	橋本
15		腎・泌尿器病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	洲村
<p>講義は、原則として 金曜日 16:50~18:20 N502 演習室で行います。 講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。</p>			